2026年4月5日
復活祭（イースター）主日礼拝説教要約

律法と預言者が指し示すお方

（ルカ24・13～32）

一、キリストの復活が出発点

キリスト教会は、イエスさまが死者の中からよみがえられたと知ることから始まりました。もしよみがえらなかったなら、弟子たちも失意のまま、元の仕事に戻ったことでありましょう。当初、弟子たちの中には、イエスさまは、来たるべきエリヤだとか、預言者だとか、メシア（キリスト）だという受け止め方がありました。ですから、祭司長を始めとする最高法院から引き渡され、十字架刑になり、死んでしまわれた後は、たいへんな失意の中にありました。ですが、弟子たちは復活のイエスさまに出会い、イエスさまが死者の中からよみがえらされたと信じるようになりました。

ルカの福音書24章は〈**週の初めの日の明け方早く**〉という記述から始まります。女性の弟子たちが、ご遺体に香油を塗るために墓の入口まで行きました。彼女たちは、墓にイエスさまのご遺体が納められる様子を見ていました。大きな石が転がされて墓を塞いだことも見ていました。だからこそ、2節に〈**見ると、石が墓からわきに転がされていた**〉と語られています。石が墓からわきに転がされていたのを見て「何があったのだろうか？」と不可思議に思いました。彼女たちは勇気を出して墓の中に入りました。すると主イエスのからだはありませんでした。途方に暮れていると、二人の天使が現れ、「**あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです**」と語ったというのです。彼女たちはエルサレムの家の一室に隠れていた弟子たちに、事の次第を説明しました。十一人の弟子たちと、他の弟子たち、協力者たちは、女の弟子たちが語ったことを信じませんでした。ですが、ペテロは走って墓に行き、イエスさまのご遺体を包んでいた亜麻布だけを見て、帰って来ました。

こうして13節です。〈**ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていた。**〉とあります。〈**ちょうどこの日**〉ですから、週の初めの日の夕方です。〈**弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていた**〉とあります。〈**六十スタディオン**〉とは、約11キロメートルです。〈**弟子たちのうちの二人**〉は夫婦だったという推測もありますが、聖書に書かれていないので分かりません。彼らは、失意の中にあり、14節〈**彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。**〉とあります。すると、イエスさまが近づいて来て、彼らと共に歩き始められました。しかし、二人の目は遮られていて、分かりませんでした。

ところで24章33節以降、舞台は再びエルサレムにいた弟子たちの場面に移っていますから、13節から32節までは「挿入的な内容」であったと読むことができます。二人が話し合っている時、彼らとともに歩き始められたイエスさまは、生前のイエスさまとは異なる、復活体のイエスさまでした。だから、突然現れられたり、見えなくなられたり、弟子たちが集まっていたエルサレムの一室に現れられたりしました。17節をご覧ください。〈**イエスは彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。**〉とあります。弟子の一人クレオパが答えました。18節後半です。〈**「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」**〉と。見ても分からない。声を聞いても分からない。それが、復活して栄化されたからだを持つイエスさまでした。さて19節より、二人の弟子たちとイエスさまとが交わしたことばが記されています。19節より21節前半です。〈**イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。**〉と。

二、イエスによる聖書の解き明かし

こうして会話は続いて行きますが、一番大切な内容に入ります。25節、26節、27節です。〈**そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのではありませんか。」それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。**〉と、イエスさまは語られました。復活のイエスさまは、「聖書が語っているのは、御自身のことである」と語られました。聖書とは、キリスト教会で言うところの旧約聖書であり、ユダヤ人が言うところの律法と預言者と諸書です。旧約聖書はイエスさまのことを書いていると、主イエスさま御自身が語られました。ゆえに教会も、旧約聖書にイエスさまを見いだす読み方をします。